

学校教育目標

ふるさとの恵みに感謝し
活力ある児童の育成

- いのちを大切にする子ども
- 自ら学ぶ子ども
- 気品のある子ども



もみの木



日光市立日光小学校だより

令和2年5月27日発行

TEL 0288-54-0070

FAX 0288-54-0457

<http://www.nikko.ed.jp/nikko/>

久々に学校に元気な子供たちの声もどってきました。嬉しいですね！

児童の安全確保は学校教育の中で、最優先課題であり、今回の新型コロナウイルスの感染防止に向けては、全職員でできる対応を精一杯努めていきます。しかし、これは当然なこと。それと同時に決して忘れてはいけないことがあります。子供たちは新型コロナウイルスの感染防止ということで、長期臨時休業という状況に追い込まれ、そのために、数々の学びや楽しい体験、さらには一生懸命に目指してきたものや活躍の場など、失われたもの、奪われたものなどが数え切れないほどあると思います。また、不要不急の外出自粛要請など、我慢の連続であったとも思います。そのような中、ようやく6月1日(月)の学校再開が決まり、その準備として、25日(月)から支部別の分散登校が始まりました。久しぶりの登校ということで、最初は緊張している様子が見られましたが、だんだん慣れてきて、明るい笑顔と元気な姿が数多く見られるようになり安心しました。やはり学校は子供たちがいて、はじめて学校と言えます。学校自体が子供たちから元気をもらったという感じでした。本当に嬉しかったです。

そこで、今ここで、大切なことを再確認し、ピンチをチャンスに変えられるように頑張っていきたいと思っております。！

本校の重点目標・・・「**誰もが認められ、誰もが安心してチャレンジできる学校生活**」をいっそう目指していきます。

生きる力……………「**自分の命は自分で守る**」「**周りの人たちを大切に守る**」ということの大切さを指導するチャンスであると捉えて指導してまいります。

◎学校再開に向けて、学習指導・生活指導・保健安全指導について、次のようなことを教職員全員で話し合いました。話し合いの主な内容は次のとおりです。

学 習 指 導

- ・授業時数が削減され、難しさはあるものの、やはり「楽しい わかる授業」を目指していきましょう。一方的な詰め込み学習は長続きはしないと思いますし、学習意欲を半減させてしまうことになってしまうと思います。
- ・学びを保障するために、効率よく学んでいくことができる指導の工夫がいっそう求められています。家庭学習をさせても、学校でのおさらいは必要だと思います。
- ・学校全体で共通理解をして、学年で進度を合わせていきましょう。
- ・ある教育雑誌の記事の中に、国語・算数・社会・理科・英語を優先してという記事がありましたが、本当にそれでいいのでしょうか、子供たちの興味・関心は様々であり、好きな教科や楽しみにしている教科も様々であります。それに合わせるためにも、どの教科も大切に指導していきたくと思っています。

生 活 指 導

- 1 手洗い・うがい・消毒の徹底(子供たち自ら)
 - 2 会話をするときの注意(咳エチケット 子供たち自ら)
- ※自分を守るためにも まわりの人たち(家族・友達)を守るためにも、気をつけていこうという姿勢・心

子供たちを守っていく、育てていく、そして指導していく教職員として、心がけていきたいこと

- (1) 発達段階に応じた支援・・・1年生への必要な支援は？ 6年生への必要な支援は？と考えて、必要な支援を工夫して実践していく必要があると思います。
※児童ができることまで全部、教師がやってあげてしまったら、本当に子供たちのためになっているのか考えてしまいます。できることなら、この辛い経験を少しでも学びに変えていきたくと思っています。
- (2) 指導の仕方(話し方)にも注意が必要だと思います。
感染防止、感染防止とって、上から目線で子供たちを指導していくと、いずれ、誹謗中傷や差別を生むことにつながる可能性が高いと思います。

例えば、「手を洗わなければダメ。」「ちゃんとうがいでして。」「間隔を空けて。」といったようなダメだし指導
→ 「**自分のためにも、まわりの友達のためにも、きちんとやっていこうね。**」

例えば、パソコンを使用した後、子供たちにきれいにさせる、消毒をさせる場面では、
→ 「**次に使う人が気持ちよく使えるように拭こうね。**」
※注意・怒る・怒鳴るのではなく→理解させる 諭す(心の中に入るように)・自ら動くことができるように
- (3) どんなに気をつけても 何が起こるか分からないということを指導していく必要があると思います。(心の教育)

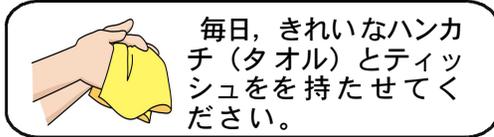
絶対に感染しないという保障は、誰にもありません。
気をつけていても、いつどんなことで、感染・発症するかわかりません。
ましてや、気をつけていたのに感染してしまったら……。その人を責めますか。
こういったことも発達段階に応じて、手法を変えて繰り返し子供たちと考えていきたくと思っています。

(1) 児童の健康チェックを強化します。

- ・登校前に必ず自宅での検温をお願いします。(検温カード提出)
- ・担任は、検温カードをチェックするとともに、健康観察時に健康状態を把握します。
- ・登校後に不調を訴えた場合は必ず検温を行い、保護者に連絡をして速やかに早退させます。

(2) 基本的な感染症対策の徹底をします。

- ・石けんによる手洗い(30秒以上)を励行します。(休み時間毎、給食前、トイレ後、掃除後など)
- ・咳エチケットを徹底します。(マスクの着用)



(3) 教職員は、児童下校後、校内を消毒します。

(4) 保健室の中は、けが等の手当てをする場所と、発熱等でお迎えを待つ場所に分けて対応します。

(5) 発熱等の場合、次のような対応をします。

- ・熱がいつもよりも高い場合、または体調不良を訴えている場合は、速やかに保護者に連絡をして早退させたいと思います。御理解ください。
- ※その際、児童を待機させる場所は、保健室内のテントブースです。
- ※発熱児童に対応した職員は、必ず手洗いと消毒を行います。

(6) 教室内での距離の取り方に気をつけます。

- ・机は1～2m離します。
- ・授業中も外側と廊下側の窓を開け、密閉を避けます。休み時間ごとに窓を大きく開けて換気を行います。
- ・近距離でのグループを作った話合い等は行わないようにします。
- ・列を作って並ばせる場合も、1～2m間隔をとるようにします。

(7) 歯みがき

- ・自席で歯みがきをさせて、水道を使うときは、水が跳ねないように低い姿勢で行わせ密にならないよう時間差を設け指示をします。

※熱中症対策として、各担任は、暑いときには人との距離を離す等の対応をした上で、適宜マスクをはずすように指導していきます。

(8) 給食対応についての主な約束ごと

- ・石けんを使って手をきれいに洗います。
- ・手洗いの後は、ハンカチでよく拭いてからアルコール消毒をします。
- ※給食当番は、給食を配る前に、もう一度アルコール消毒をします。
- ・給食当番は、健康チェック表を活用して、健康状態を必ずチェックします。
- ・配膳台と自分の机の上をきれいにします。配膳台はアルコール消毒をします。
- ・給食の配膳は、自分の分は自分で行います。
- ・給食当番になっていない人も、自分の席でマスクをして静かに待ちます。
- ・「いただきます」「ごちそうさまでした」はマスクをしたまま行います。
- ・給食は前を向いたまま、静かに食べます。※音楽や日本昔話等を放送で流します。
- ・給食で食べきれなかったおかずやデザートをもらったり、あげたりしません。
- ・食べ終わったら、マスクをして待ちます。
- ・片付けは、自分のものは自分で行います。



「食育」について、学校栄養士のW. K先生からお話をいただきました。どうぞお読みください。

身近な問題「食品ロスについて考えてみましょう。」



「食品ロス」という言葉を皆さんは聞いたことがありますか? 「食品ロス」とは、まだ食べられるのに廃棄される食品の事です。最近では、コロナウイルス感染症の影響で売り上げが減少してしまった農家や食品関連業者などを対象に「食べて応援!! 食品ロス対策」というのを耳にするようになりました。日本ではまだ食べられる食品が、年間645万トンも廃棄されています。賞味期限切れや、食べ残し、調理時に出た食材の皮など…適切な処理をすればまだ食べられるものを無駄にしていることがその原因となっています。この食品ロスは今、深刻な社会問題となっていますがこれは生産業や加工業、外食産業に限った話ではありません。実は、食品ロスの半分のおよそ280万トンは家庭から出ているのです。「家庭で食品ロス?」と驚かれる方もおられると思います。私たちは日ごろ毎日の食事のために食料を購入しますが、時折「あ、これまだあったのに」と、同じものを購入してしまったり、うっかりしているうちに賞味期限が切れてしまったりして処分してしまうことがありますか? 賞味期限内であっても見た目や傷んでいるような気がした場合は廃棄してしまうこともあると思います。これらの積み重ねで家庭から出ている食品廃棄は全体の約半分を占めているというのですから驚いてしまいますね。

学校給食でも食品ロスは発生します。調理中のキャベツの外葉や、人参の皮、下膳されてきた各クラスからの配膳車には、手も付けなままの牛乳パックや、デザート、給食当番さんが上手に配り切れずに食缶に残ったままの料理や、量が多くて食べきれなかったパンやご飯、好き嫌いや、時間が足りなくなってしまって食べきれなかった、太りたくないから食べないで残した…など様々な理由で残ってしまった食べ残しがたくさん乗せられて給食室へと戻ってきます。学校給食の食べ残しの理由は体格差や運動量の違い、普段の食生活の違いなどが影響されるため、全員がすべて残さず食べようとするのは難しいと思います。ですが、環境省のHPによると、学校給食の食べ残しは年間約5万トンも発生しているといわれています。このように、食品ロスは私たちのすぐ身近にあります。この問題を何もしないで放っておいていいのでしょうか。食品ロスを減らすために、今、私たちができることは、一人一人が少し変わる事です。食品を廃棄することに何かを感じてください。それは農家や配送、加工などたくさんの人々が関わり、あなたの口までたどりついた大切な食べ物です。日々の生活の中で出来ることから始めてみませんか?